

課題1

ヒバ天然林施業の調査データ収集と解析

平成7年度～令和6年度

・ヒバ天然林施業指標林他

ヒバ天然林施業指標林の中に1haの大規模プロットを設置し、平成7年に択伐した後の林況の変化を、個体識別しながら追跡調査をしています。

また、広葉樹との混交がヒバ天然更新に与える影響を調べるため、平成14年度に新たな調査地を設定し、調査に取り組んでいます。



択伐後、旺盛な成長を始めたヒバ稚樹



樹幹周囲長調査の様子

・ヒバ単層一斉林型から複層林型への誘導

ヒバ天然林の中には、立木密度が高く、ヒバ後継樹を含めた下層植生がほとんどない林況になっている、単層一斉林型の林分が見られます。

このような林分を公益的機能の発揮とヒバの旺盛な成長が期待できる、複層林型林分に誘導する本数調整手法の確立を目指しています。また、ヒバの生理・生態の面からも施業方法の裏付けを図るため、森林総合研究所東北支所と共同研究を行っており、平成15年度から調査地を増やしデータの充実を図っています。



間伐前の林況



伐採率40%の間伐後